



社会福祉法人 恩賜財団 済生会和歌山病院

〒640-8158 和歌山市十二番丁45番地

TEL. 073-424-5185

FAX. 073-425-6485

ホームページ: <http://www.saiseikai-wakayama.org/>



済生会

わかやま

NEWS

第45号

発行日: 2022.2



寅

～ 理念 ～

私たちは、地域社会に親しまれ、信頼され、患者さんも職員も元気が出る病院をめざします。

～ 基本方針 ～

1. 急性期医療を基本に機能と特性を明確にする。
2. 患者さんの立場に立って、安全で質の高い医療を効率的に提供する。
3. 透明性、公共性を保ち、地域社会と連携を密にし、地域から求められる病院にする。

患者さんの権利と責務

1. 平等に良質で適切な医療を受ける権利があります。
2. 医療に際して十分な説明を受ける権利があります。
3. 検査・治療等に際してそれを受ける事を自己の判断のもと承諾あるいは、拒否する権利があります。
4. 医療のどの段階においても他の医師や医療機関の意見を求める権利があります。
5. 自己の病状について情報を得る権利があります。
6. 自己の病状について個人的情報の秘密を守られる権利があります。
7. 医療に関する苦情を申し立てる権利があります。
8. 良質な医療を実現するために、自己の健康状態に関する情報を正確に伝える責務があります。
9. 治療費を支払う責務があります。
10. 良好な療養生活を守るために、定められた諸規則を守る責務があります。
11. 医師・看護師や病院職員の指示に従う責務があります。

— Information —

2022年(令和4年)新年のご挨拶

皆様におかれましては、良き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年もおひとかたならぬご厚情を賜りましたことに心から感謝いたしております。

皆様方のお蔭で無事に2022年(令和4年)の壬寅(みずのえとら)年を迎えることができました。

当院の1年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症のクラスターが昨年2月に発生したことが思い出されます。当時は先生方や地域の皆様には大変なご不便とご迷惑をお掛けしましたが、保健所の方々をはじめとする様々な関係機関の方々のご指導とご協力のもと、職員が一致団結し、連日連夜、協議と対応を重ね、2週間ほどの短期間で収束させることができました。また、その後の第5波による市中感染の増加に伴い、ひとつの病棟をコロナ病棟へ変更したことや行動制限を設ける等々、実にさまざまな対応に迫られた1年でした。済生会和歌山病院の力が試されたような気がいたしますが、立ち上がる難局をその都度乗り越えることができましたことに安堵するとともに職員が前向きに積極的に業務を行う様が頼もしく嬉しかったことを思い出します。職員同士のつながりや絆も深まり、病院のピンチをチャンスに変えることができました。



済生会和歌山病院
院長 川上 守



地域と共に、和歌山と共に、これからも共に、済生会和歌山病院





ほっと一息もつかの間、新型コロナウイルス感染症は、昨年末からオミクロン株の感染拡大の兆候をみせています。しかしながら、当院の「本気の感染対策」をさらに押し進めれば、恐れることはないと考えています。

2021年の「創作四字熟語」最優秀賞に「七菌八起(ななころなやおき)」が選ばれました。これは「リバウンドがあってもコロナに負けずに起き上がろう」との思いを表したそうです。まさに当院もどんな困難にも負けずに立ち向かい、乗り越えていく所存でございます。

今年は寅年ですが、壬寅(みずのえとら)年というのが正しいようです。「寅」の上の「うかんむり」は建物・組織を表し、下の字は人が協力する・人を助ける意味があるとのこと。済生会和歌山病院という

組織の中で職員一同が協力して、患者さんご家族を助けることはもちろんのこと、地域医療・地域包括ケアを提供し、地域の皆様が安心して暮らしていけるよう尽力して参ります。また、私が常日頃心掛けております“患者さんとご家族を中心としたチーム医療”を徹底的に実践し、質の高い医療を提供することで、様々な背景を有する患者さんのケアと患者満足度向上に寄与して参ります。

当院のキャッチフレーズであります“地域と共に、和歌山と共に、これからも共に、済生会和歌山病院”を形にし、地域の皆様に親しまれ、選ばれる病院となるよう精進いたします。

当院は、日頃からお世話になっております多くの医療機関や介護施設等の皆さまのご協力とご支援が不可欠であります。本年も変わらぬご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして良い年になりますことを祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

～ ご挨拶 ～

昨年7月に事務部長を拝命致しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年1年間も引き続き新型コロナウイルスの感染拡大により、困難の続く日々であった一方で、国による三位一体改革(地域医療構想、医師の働き方改革、医師の偏在解消)も着々と進みつつあり、病院を取り巻く環境はさらに厳しさを増すばかりです。

そんな環境下でも当院のおかれた立ち位置は、今後もより一層重要となります地域の医療機関の皆様、介護施設の皆様との連携を図りながら、患者様中心の医療を行なっていくことと考えております。

病院内では、川上院長の下、組織の風通しを良くするための委員会の改編を進め、各部署の意見の吸い上げ、決定事項の周知、浸透等、縦の意思疎通等がより図れるようになってまいりました。

この空気を病院内に留めず、地域の先生方、介護施設の方々からも、何か当院へのご意見、ご質問等ございましたら些細なことでもご遠慮なくお声をお寄せいただければと思っております。今後の病院運営に役立て活かして参ります。

終息も未だ見えぬ新型コロナウイルス対応等気の抜けない日々が今後も続きますが、「地域と共に、和歌山と共に、これからも共に、済生会和歌山病院」という新たなキャッチフレーズを掲げておりますように、常に和歌山の中核病院として地域のすべての皆様と共に歩んで参る所存です。

今後とも引き続きご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。



事務部長
浦 啓



～ 感染防止対策室より vol.1 ～

病院で勤務するものとして、感染源を他の患者さんに伝播させてしまうことは絶対に避けなければいけません。

感染対策の基本に「標準予防策(スタンダード・プリコーション)」というものがあります。これは、1996年に米国疾病予防管理センター(CDC)が発表した予防策で、感染症の有無に関わらず、すべての患者さんのケアに際して普遍的に適用する予防策のことです。

標準予防策の基本は手指衛生です。患者さんに関わる前後や周囲物品に触れた後は手指衛生を行います。また、患者さんの血液、体液(唾液、胸水、腹水、等すべての体液)、分泌物(汗は除く)、排泄物、あるいは傷のある皮膚や、粘膜は感染性があるものとみなし、適切な个人防护具(手袋、エプロン、マスク、ゴーグル等)を着用します。平たく言えば、誰が感染症を持っているかわからないので、患者さんに関わる前後には手指衛生を行い、場面に応じて適切な个人防护具を着用しましょうということです。

当院は2021年2月に新型コロナウイルスのクラスターを経験しました。陽性者のほとんどが無症状であったことから、誰が感染症を持っているかわからないという、標準予防策の重要性を改めて認識したところです。常日頃から標準予防策の重要性を指導している立場でしたが、自分自身もどこか対岸の火事という気持ちがあったのかもしれません。

患者さんに信頼され、安心して治療を受けていただけるよう、本気の標準予防策を推進してまいります。



感染管理認定看護師
佐藤 慎悟



患者さんに関わる場合は、ゴーグルおよびフェイスシールドを着用させていただいております。



いつでも手指衛生ができるよう、携帯型のアルコール製剤を着用しています。



～ 赴任のお知らせ ～



腎センター
東裏 将己 医師

2021年10月より済生会和歌山病院 腎センターに着任しました東裏 将己と申します。これまでは和歌山県立医科大学付属病院や新宮市立医療センター等で慢性腎臓病から維持血液透析の管理に携わってきました。血液透析導入を少しでも減らすべく、予防観点から慢性腎臓病管理に重点をおいて診療していきたいと考えています。

至らぬ点が多々あるかと存じますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

専門領域：腎臓内科、血液透析
出身大学：和歌山県立医科大学
卒業：2012年 卒業



リハビリテーション科
羽端 章悟 医師

2021年10月にリハビリテーション科に赴任しました羽端 章悟と申します。専攻医としてこれまでは和歌山医大、那智勝浦町立温泉病院で研鑽してまいりました。回復期リハビリテーション病棟での診療を主として、急性期疾患患者のリハビリ紹介にも当たらせていただきます。まだまだ至らぬ点もあるかと存じますが、日々精進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

専門領域：リハビリテーション医学
出身大学：和歌山県立医科大学
卒業：2017年 卒業



消化器内科
酒井 亮太 医師

2021年10月より消化器内科に赴任しました酒井亮太と申します。和歌山県立医科大学付属病院での初期研修医修了後、同院第二内科入局し、現在に至ります。川口部長のもとで消化器内科疾患の診療に当たらせていただきます。至らぬ点もあるかと思いますが、皆様のお役に立てる様最善を尽くしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

専門領域：消化器内科一般
出身大学：和歌山県立医科大学
卒業：2019年 卒業



糖尿病代謝内科
小池 諒 医師

令和4年1月より糖尿病代謝内科に赴任してまいりました小池諒と申します。これまでは糖尿病、高血圧症、脂質異常症、消化器疾患を中心に和歌山県内の病院で診療しておりました。まだまだ至らない点も多々あるかとは思いますが、地域の皆様のお役に立てるように精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

専門領域：一般内科 糖尿病・甲状腺
出身大学：金沢医科大学
卒業：2010年 卒業



脳神経外科
川端 将之 医師

令和3年10月より脳神経外科に赴任いたしました川端将之と申します。南和歌山医療センター・和歌山県立医科大学付属病院にて脳卒中診療を中心に診療してまいりました。これまでの診療経験を活かし済生会和歌山病院におきましても脳卒中診療を中心に脳神経外科疾患の診療に努めてまいります。まだまだ至らない点も多くあるかと思いますが、皆様のお役に立てますよう最善を尽くして頑張っていきますのでよろしくお願い申し上げます。

専門領域：脳神経外科全般
出身大学：和歌山県立医科大学
卒業：2012年 卒業



～ 栄養管理科から季節のオススメレシピの紹介～



栄養管理科の「季節のおすすめ」レシピ
材料はたったの4つ！寒い冬を乗り切ろう！！



エネルギー：121kcal、たんぱく質 15.3g、塩分：1.0g

1人前



材料

- さば水煮缶.....75g
- キャベツ.....80g
- にんじん.....25g
- しょうが.....5g



作り方

- 1. キャベツはざく切りにする。
- 2. にんじんは短冊切りにする。
- 3. 生姜はせんざりにする。
- 4. 鍋に、①②③を並べ、上にさばの水煮をおいて、缶汁を全体に回しかける。
- 5. 鍋に蓋をして、中火で5～6分間蒸し煮にする。

ここがポイント！ “生姜”



加熱された生姜に多く含まれるショウガオールという成分は、燃焼効果を高め、熱を作り出すとともに、血流促進を行い体の内側から温めます。

～ 地域医療連携室からのお知らせです～

地域医療連携室に新たに2名のスタッフが入职いたしましたのでご紹介させていただきます。

新たなスタッフと共に、当院のキャッチフレーズである『地域と共に、和歌山と共に、これからも共に、済生会和歌山病院』を実現すべく今まで以上に『顔の見える連携』に努めて参りたいと存じますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

北野 祥平

令和3年1月より入职いたしました北野祥平(社会福祉士)と申します。
早いもので済生会和歌山病院に入职して1年が経ちました。退院・転院を始めとする後方支援業務を担当させて頂いています。
今後とも宜しくお願い致します。



高岡 唯華

令和3年7月より入职いたしました高岡唯華(社会福祉士)と申します。
初めての和歌山の地でわからないことだらけですが、済生会和歌山病院の一員として一生懸命頑張りますので今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



地域と共に、和歌山と共に、これからも共に、済生会和歌山病院



濟生会和歌山病院外来診療予定表

(令和4年2月1日現在)

区分		月	火	水	木	金
フットケア外来		担当医				
内科	糖尿病代謝内科	藤原 舞美	福田 咲子 英 肇	担当医	英 肇	担当医 小池 諒
	循環器内科	尾鼻 正弘 禁煙外来(午後~)	— 医大応援医師	— 尾鼻 正弘	下角 あい子 第2,第4のみ (1,3,5週目休診)	医大応援医師 下角 あい子
	呼吸器内科	高木 陽	—	赤松 弘朗	高木 陽	—
脳神経外科		岸野 洋子 三木 潤一郎	小倉 光博※1 川端 将之	小倉 光博※1 岸野 洋子	三木 潤一郎 川端 将之	仲 寛 (第1,3,4,5週) 山家 弘雄 (第2週)
消化器病センター 大腸肛門病センター	消化器内科	川口雅功※10:00~	—	川口 雅功	酒井 亮太	川口 雅功
	外科(消化器)	木下 博之※2	—	坂田 好史※2	—	加藤 紘隆※2
心臓血管外科		湯崎 充 中西 靖佳※6	高垣 有作 (リンパ浮腫)	湯崎 充	上松 耕太 湯崎 充	湯崎 充
整形外科		川上 守 前田 孝治 橋本 光司	川上 守 山崎 悟 久保井 勇樹 星野 晃廣	新患診	川上 守 山崎 悟 前田 孝治 橋本 光司	— 久保井 勇樹 星野 晃廣 —
人工関節センター		—	—	—	山崎 悟※4	—
リハビリテーション科		—	—	—	石田 和也 羽端 章悟※5	—
耳鼻咽喉科		木村 貴任	—	熊代 奈央子	—	—
腎センター		—	東裏 将己	—	岡本 昌典	—
眼科		臼井 佑太	西 晃佑	—	松下 愛	吉田 太理
皮膚科		塔筋 恵実	—	山本 有紀※3	—	—
泌尿器科		—	—	康原 根浩	—	和田 拓磨

専門外来

- ※1 脳神経外科 小倉光博医師(火・水・木)の外来では一般診療に加え、専門外来(三叉神経痛・片側顔面麻痺・舌咽神経痛・ものわずれ外来)を行っております。
- ※2 外科 一般診療に加え、大腸肛門外来を行っております。
- ※3 皮膚科 山本 有紀医師(水曜日)は皮膚科専門外来の為、予約診のみとなります。
- ※4 人工関節センター 山崎 悟医師(木曜日)は15:00~予約診のみとなります。
- ※5 リハビリテーション科は13:00~15:00となります。
- ※6 心臓血管外科 中西 靖佳医師(月曜日)は13:00~15:00となります。



濟生会和歌山病院
ホームページQRコード

診療案内

診察日:月~金曜日
受付時間:午前8時30分~午前11時(但し、予約患者はこの限りにあらず/火・木 整形外科 川上は8:30~15:00)
休診日:土・日・祝祭日(年末年始)
面会時間:月~金曜日 午後2時~午後7時 土・日・祝祭日 午前10時~午後7時



ご紹介の際は、患者さんの待ち時間短縮の為に、ご予約をお取り下さいます様お願いいたします。

交通案内

- JR和歌山駅から和歌山バス約10分「京橋」下車、徒歩すぐ
- 南海和歌山市駅から和歌山バス約5分「京橋」下車、徒歩すぐ

地域医療連携室

TEL (073) 424-5186 FAX (073) 424-5187